

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成26年度 第3回ジョンソン基地跡地利用計画審議会
開 催 日 時	平成 27年2月9日 (月) 午後1時30分 開会、午後2時20分 閉会
開 催 場 所	入間市市民活動センター 活動室1
議 長 氏 名	関根栄一
出席委員(者)氏名	青山正一、安孫子学、岩井絹江、大賀志日出輝、久原愛生、 小鹿広美、駒月理人、澤田壽一、関根栄一、高石直美、 高橋康造、瀧 和之、吉川弘三
欠席委員(者)氏名	岩崎 茂、豊泉一雄
説明者の職氏名	課長 長谷川芳明、副主幹 石井英寿
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開会 2 議題 (1) 東町側留保地の利用方法についての市のこれまでの計画に ついて(公開) (2) 防衛省による災害対処拠点施設、自衛隊病院整備の趣旨に ついて(公開) (3) その他(公開) 3 次回の日程 4 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	9人
配 布 資 料	・資料6 東町側留保地の利用方法についての市のこれまでの計画 ・資料7 返還財産の処分条件について ・資料8 「災害対処拠点について」「自衛隊病院について」 ・資料9 東町側留保地に関する平成27年度予算について
事務局職員職氏名	企画部長 西勝啓祐、企画課長 長谷川芳明、副主幹 石井英寿、 主事補 齊藤正文
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

次の議題について事務局から説明し、委員からの質疑を受け事務局が回答した。

- (1) 東町側留保地の利用方法についての市のこれまでの計画について
- (2) 防衛省による災害対処拠点施設、自衛隊病院整備の趣旨について
- (3) その他(東町側留保地に関する平成27年度予算について)

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)</p> <p>ただいまの出席委員は13名で、お二人から欠席の連絡を受けております。定足数に達しておりますので、これより、第3回ジョンソン基地跡地利用計画審議会を開催いたします。</p> <p>早速、議事に入ります。議事「(1) 東町側留保地の利用方法についての市のこれまでの計画について」、事務局より説明を求めます。</p>
長谷川課長	<p>本日はまず、防衛省からの利用要請への対応についてご審議いただくにあたっての参考として、この留保地に関するこれまでの計画についてご説明させていただきます。</p> <p>今回配布しました資料6をご覧ください。</p> <p>留保地につきましては、平成20年に財務省に提出した利用計画書が、最新のものとなります。そこに至るまでの経過も含めてご説明いたします。</p> <p>まず資料の最初にあります「1 県営公園(現・彩の森入間公園)へのスポーツ施設設置要望」についてですが、ジョンソン基地跡地の利用は、昭和48年の返還から順次利用が開始され、昭和63年の豊岡配水場の供用開始で概ね完了いたしました。埼玉県が公園用地として予定した部分の整備がなかなか進まない状況がございました。</p> <p>市では、昭和60年ごろから埼玉県に早期実現を求めて要望をしておりました。</p> <p>平成3年に市では、ジョンソン基地跡地利用計画審議会の審議を経た上で、県の公園用地にはスポーツ施設と自然広場をお願いしたい旨県に要望いたしました。しかし、翌平成4年に県は、緑豊かな公園及び災害時に備えた防災公園として整備することに決定しまして、現在の彩の森入間公園</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>となりました。最終的に彩の森入間公園が完成したのは平成１０年です。</p> <p>防災公園と決定した際に市では、スポーツ施設については、留保地が利用できればその中で考えていくこととした経過があります。</p> <p>次に資料の「２ ジョンソン基地跡地利用計画審議会中間答申」についてです。</p> <p>平成８年ごろになりまして、当時の大蔵省から留保地について活用を検討してもらいたい意向が示されました。当時は現在と違い、「公共・公益的利用」のみが認められる状況で、民間に処分とまでは至っておりませんでしたので、市が直接利用する前提の話でした。</p> <p>それを受けまして、平成８年１１月１２日、留保地の利用計画策定について審議会へ諮問しております。</p> <p>そして、平成１１年９月７日、留保地利用の方向性を示した中間答申が出されまして、審議会の審議は終了となりました。その後今回この審議会が再開されるまで、審議会は開催されていません。</p> <p>当時の中間答申では、東町側留保地については、一つは航空機騒音と既存の住宅地を分離させる緩衝地帯とすることと、もう一つは市街地に残された貴重な緑地を保全する目的からも、「緑地を主体とした公園（運動公園）」が望ましいとされております。</p> <p>資料の内容抜粋の部分を紹介します。本体については第１回で配布しております。</p> <p>市が留保地利用のための事業主体となることは、財政的にも非常に大きな負担となるため、事務局により、将来的なパートナーとなり得べき団体として、「国」あるいは「埼玉県」を始め関係機関に対して、その可能性の調査を行ったが、何れも昨今の経済状況から積極的な回答は得ることはできなかった。</p> <p>このことから、現時点においては取得費を考慮しながらの具体的な提案は困難であると判断した。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>このため『入間市にとって留保地はどうあるべきか。』を議論し、これを基にして利用計画策定の基本方針とした。</p> <p>①航空機騒音の軽減を図るためにも、また、市街地に残る貴重な緑地を保全するためにも、必要最低限の整備に止め、基本的には緑の保全を中心としていくべきである。</p> <p>②「東町側については、航空自衛隊入間基地に係わる航空機騒音と既存の住宅地を分離させる緩衝地帯とし、かつ市街地に残された貴重な緑地を保全する目的からも「緑地を主体とした公園（運動公園）」が望ましい。」</p> <p>以上のとおり、答申では彩の森入間公園で実現しなかったスポーツ施設も想定した内容になっていました。</p> <p>この時点では中間答申として定めており、その後この答申に基づいた具体的な実行には至っていない状況でありました。</p> <p>続いて 「3 ジョンソン基地跡地留保地利用計画書」について説明いたします。これは平成20年6月のものであります。</p> <p>平成15年6月になりまして、財務省が留保地の取扱いを「原則利用、計画的有効活用」に変更をいたしまして、民間譲渡も含め地元自治体の利用計画に基づき処分していく方針となりました。</p> <p>市では利用計画書の提出要請に対し、平成20年6月に利用計画書を提出した次第です。この計画書の作成にあたっては、国からの強い提出要請を受け、中間答申を踏まえながら市で構想的に策定したものです。財源的な裏付けもなく、今日まで計画の実施に至っていないものであります。</p> <p>この計画書の考え方は、内容抜粋の冒頭に書かれていますが、ひとつは、中間答申において、入間基地に対する緩衝地帯とし、貴重な緑地を保全する目的からも、緑地を主体とした公園が望ましいとされており、それを尊重する、ということ。もうひとつは、入間基地に隣接している特殊性を鑑み、国（防衛省）との連携が不可欠であり、共同利用についても検討</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>する必要がありますとしています。という内容のものでした。</p> <p>具体的には、まず「土地利用の方向性」としては、市街地に隣接した貴重な自然環境を保持しつつ、「航空機騒音に悩まされる近隣住民の生活環境の保持に資する活用」及び「市民が健康・医療・スポーツのために利用できる機能を有する公園としての活用」の2つの視点から、公共利用するとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 航空機騒音に悩まされる近隣住民の生活環境の保持に資する活用 ② 市街地に隣接した貴重な自然環境の保持 ③ 市民が健康・スポーツ・医療のために利用できる機能の設定 <p>の3点を挙げています。</p> <p>このうち3点目の「健康・スポーツ・医療」につきましては、ひとつは運動公園的なものを想定していますが、この「医療」という部分は、従来医療体制の整備についての市民要望が多くあったという事情に加え、平成20年当時、計画策定の直前に自衛隊病院建設の考えが新聞報道されており、市の財政的事実からも広大な土地の活用には防衛省との連携も必要とする趣旨で、計画にも盛り込んだ経過があります。</p> <p>なお、③の下に※で書きましたが、当該留保地が小河内ダム建設に伴う移住者が開墾した農地に由来しますので、安易に民間利用等をすべきではない土地であると考え、公的機関の利用が望ましいとの前提に立っておりました。</p> <p>次に整備コンセプトとして、4点が示されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入間基地飛行場区域に対する精神的・物理的緩衝機能を確保すること ②現状の景観・自然環境の保持を前提に、緑の保全に配慮すること ③健康・スポーツ・医療のための機能は、市全体において整備が必要な機能についての検討を踏まえながら、必要な施設を順次整備すること ④隣接する県営彩の森入間公園との連携を図ること。その際には彩の森入間公園方向からの留保地への交通アクセスについても検討する必要

発 言 者	発 言 内 容
	<p>があるということ。</p> <p>以上が平成20年の利用計画の内容です。</p> <p>平成20年に市の構想として計画を提出しましたが、この計画に基づいて具体的な動きには至らず今日に至っております。その理由は、ひとつには平成20年に防衛省による自衛隊病院の整備の考えが伝わってきまして、その結論を待つ必要があったことです。また、市の状況としますと、区画整理事業によるまちづくりを進めている中で、さらにこの広大な土地の整備を進めることは市の財政面からも難しいという事情によるものです。</p> <p>ここで、仮に市が留保地を利用する場合の土地の購入費につきまして、参考に説明させていただきます。</p> <p>資料7をご覧ください。「返還財産の処分条件について」という、財務省の通達です。各地にあります留保地の処分基準の統一を図るための国の基準になっています。</p> <p>3ページをご覧ください。3ページ以降に具体的な処分の条件が書かれています。</p> <p>表の左側に番号が振ってありますが、たとえば3番の都道府県道、市町村道は右端のCの欄で「譲与又は無償貸付け」となっています。道路を整備する場合には国に無償で処理していただけるということです。</p> <p>また一番下6番に緑地・公園がありますが、こちらは、処分する面積の2/3について無償貸付け、残りの1/3について時価売り払いとなっています。平たく言いますと、1/3の値段で全体を利用できるということです。このように施設ごとに基準が定まっております。仮に公園を整備するにあたりましてこの基準で、ということになります。</p> <p>では具体的に東町留保地の価格についてですが、中間答申では運動公園の部分と緩衝地帯があります。中間答申で運動公園の面積が28ヘクタールのうち15ヘクタールという案が示されておりますが、この部分につ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>いて、平成２２年に、市議会の基地対策特別委員会で説明した際には、固定資産税の評価方法で市街化区域の宅地として仮に評価した場合には、１平方メートルあたりの単価を７９，４７４円、１５ヘクタールで１１９億２１１０万円と試算しております。</p> <p>約１２０億円ですが、仮に公園とする場合は先ほど説明しましたように１／３の購入でよいことになりますので、１５ヘクタールで約４０億円という結果になります。これはあくまで平成２２年当時のデータで、市が単独で試算した数字であります。</p> <p>なお、市が民間に売却する場合には市街化区域に変更しなければ民間の開発ができませんので、市街化区域の宅地という評価になろうかと思いますが、市が公園として利用する場合には民間に売却する場合と異なり、現在の調整区域のままの取引ということで、調整区域内の宅地の額を参考に価格を決定することもあるかと考えますので、もう少し低い単価、たとえば県の地価調査で入間市・狭山市の市街化調整区域内の現況宅地の価格が４万円台という数字がございますので、仮に５万円として、１５ヘクタールで７５億円、公園の基準である１／３として２５億円となります。</p> <p>これはあくまで土地代ですので、整備をしようとするときにさらに相当の価格が必要になるものと思われます。</p> <p>それらの状況もありまして、なかなか具体的な動きをとれなかったという状況であります。</p> <p>最後におさらいになりますが、今回防衛省が利用したいとの申し出をするに当たりましては、留保地の処理ルールで地元自治体の利用計画に基づいて財務省は処分することになっており、財務省におきましても平成２０年の計画書が入間市の構想として承知しているところであります。</p> <p>ここで、第１回の配布資料の３－５防衛事務次官からの要請書をご覧くださいと思います。</p> <p>要請書の下から６行目ですが、「今後、利用計画を有する貴市とも協議</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>を進めてまいりたいと考えております。また、協議においては、ジョンソン基地跡地留保地利用計画（平成20年6月）に十分配慮しながら進めていく所存です。」と書かれております。</p> <p>防衛省においても、利用計画に配慮する中で施設整備していきたいとしておりますので、その点も含めた防衛省の計画の内容について、次回の会議に向けて資料をいただくことで調整を進めておりますので、それをもとに、市の取るべき判断についてご審議いただければと思います。</p> <p>以上が、留保地に関するこれまでの市の計画についての説明でございます。</p> <p>ただいま、（1）東町側留保地の利用方法についての市のこれまでの計画について事務局から説明がありましたが、意見、質問があればお受けいたします。</p> <p>（なし、の声あり）</p> <p>なければ、議事（1）については終了とします。</p> <p>続いて議事（2）防衛省による災害対処拠点施設、自衛隊病院整備の趣旨について事務局より説明をお願いします。</p>
長谷川課長	<p>それではご説明します。第1回審議会の時のスケジュールですと、本日は利用計画の説明がメインでありましたが、防衛省から資料の提供がありましたので、次回の前に、本日用意ができていた資料について提供させていただきました。「防衛省による災害対処拠点施設、自衛隊病院整備の趣旨について」ということで、防衛省がどのような施設を整備する考えであるのか、整備する施設の概略の内容について、防衛省提供の資料によりご説明いたします。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>資料の 8 をご覧ください。</p> <p>こちらは災害対処拠点についてです。この施設の目的としまして、上段左側 1 番ですが、「被害状況が不明な状態において、遠方からの増援部隊を集結させる場所として使用。大規模な部隊を迅速に集結させるため、利用できることが予め確定していることが必要。終結後は、部隊の指揮所等として使用。」とあります。</p> <p>地図を見ますと首都直下地震の場合、23 区を中心に東京湾沿岸が被害予想エリアになっておりまして、増援部隊が入間の災害対処拠点に向けて集結する絵になっております。増援部隊を要請する場合に、集結場所があらかじめ確定していれば、迅速に集結可能であるということで、集結場所を入間に用意したいということです。そして、集結した後には部隊の指揮所等として使用するということです。</p> <p>次に右側に 2 ですが、「首都圏で活動する部隊の救援活動等に必要な装備品及び被災者の支援のために必要な救援物資等を各地から集積し、輸送するための活動拠点として使用」とあります。</p> <p>自衛隊の部隊のほかに、救援活動のための装備品や被災者のための救援物資を集積し輸送する拠点として使用するということです。</p> <p>左下にレイアウト、1 個師団の展開例があります。師団というのは部隊編成の単位で、独立して作戦を展開できる規模のもので、人員が 6,000～8,000 人規模、所要面積も約 14 万平方メートル規模とあります。</p> <p>そして、下にレイアウトがありますが、指揮所区域、支援物資集積場、駐車場、野営区域にエリアが分けられています。派遣された部隊が、ここで寝泊まりし、活動するとともに、物資等の集積場にもなるということです。</p> <p>それから、右側の写真ですが、上の写真は、平成 16 年に発生した新潟県中越地震の際に、Ｊリーグ等でも利用している新潟スタジアム、通称ビ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ッグスワンに集結した自衛隊車両の様子とのこと。これは実際の展開例であり、駐車場を借り上げて展開していたということです。このような災害対処拠点を入間にも用意したいということでもあります。</p> <p>次に、資料の裏面ですが、こちらは自衛隊病院についての一般的な説明です。</p> <p>まず、1 目的として、「平素は、自衛隊病院及びその家族等の診療、医療従事者の養成、医療従事者の技能の維持・向上、衛生に関する研究を実施する場ということ。それから、各種事態への対処時においては、自衛隊員の後送病院として機能するということです。後送病院というのは、重傷を負った隊員に2次的に対応する後方支援の病院のことです。</p> <p>右側に現状・課題ということで、自衛隊病院の拠点化・高機能化とあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国に中小の病院が分散配置している。 ・施設・医療器材の老朽化が進んでおり、診療への影響が生起している。 ・医療技術者の分散、医官の退職による低充足 ・診療技術、専門性の向上がやや困難 <p>これらの課題を克服するため、現在の病院を集約化し、人的・物的資源の集中を図ることにより、効率的かつ質の高い病院を整備したいという状況があるということです。</p> <p>それから、下に三つの病院が示されています。岐阜病院、那覇病院そして三沢病院です。この三つの病院が現在航空自衛隊で所有している病院ということです。それ以外は陸上自衛隊、海上自衛隊、また、自衛隊全体としての病院ということで、航空自衛隊としての病院というのはこの3つであり、それ以外については基地に医務室等が用意されているということであり病院ではありません。</p> <p>岐阜病院は診療科目が7科、内科、外科、整形外科等、病床数は100床、発足は昭和37年ということで、だいぶ歴史のある病院です。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>それから那覇病院については、診療科目が7科、内科、外科、整形外科等、病床数は50床、発足は昭和54年ということです。</p> <p>三沢病院については診療科目が6科、内科、外科、整形外科等、病床数は50床、平成元年の発足ということです。</p> <p>これらの病院がある中で、拠点化・集約化のために入間に病院を新たに整備したいということであります。</p> <p>以上が防衛省からの資料に基づく、整備予定の施設の趣旨についての説明でございます。施設の配置案や整備スケジュール等の詳細につきましては、こちらから次回の議会のスケジュールを示したうえで、現在防衛省で資料作成しているところであります、今後次回の審議会において説明する予定です。以上です。</p>
関根会長	<p>ただいま事務局から説明がございました。意見、質問があればお受けいたします。</p>
駒月委員	<p>ひとつ質問します。災害対処拠点のレイアウトを見ると、14万m²とあり、これは28haの半分だと思うのですが、残りの半分は全部病院なのでしょうか。病院にしては広すぎると思います。全部を使うという趣旨で提供されたものではないのですか。</p>
長谷川課長	<p>まず、こちらの資料につきましては、通常の災害対処拠点の一般的な例として、1個師団が展開する場合には概ねこれくらいのスペースが必要だという資料だと伺っております。</p> <p>それから、入間に整備するにあたっての面積については、病院、災害対処拠点施設、緑地を含めて全体を整備したいと伝わってきておりますので、病院の面積がどれくらいかといった資料は今後出てくるかと思えます。以上です。</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	他にご意見、ご質問はございますか。
澤田委員	お話を聞いていますと、市は具体的な意見を何も持っておらず、ただ自衛隊の意見をじっと待っているだけで、自衛隊の意見が出てきたらそれに従い、審議会でそれでいいですねと確認する。市当局としての意見は何もないという解釈でよろしいですか。
長谷川課長	市の方の考え方というご質問でございますが、先ほどご説明しましたように、当時の審議会の審議を踏まえたこれまでの計画が1つあり、スポーツの機能をもった公園の整備ですとか、緩衝緑地については市の考えとして持っております。それらがきちんと対応できるような計画になっているのかどうかということが、今後の確認点になっていくかと思えます。市としましてもそのあたりの部分は、できれば実現に向けて対応できればと現時点でも思っております。
澤田委員	前回の審議会からだいぶ年数がたっておりますが、市としてはその間に、財政面は別として、何も考えずにただ時が来るのをじっと待っていただけという解釈で良いのですか。
長谷川課長	平成20年の計画から今日に至るまでの間の考えと申しますと、この計画を尊重しつつも具体的には何も手を出せなかったという点ではおっしゃるとおりかと思えます。
澤田議員	審議会で審議する以上、ただ自衛隊が出てくるのをただじっと待ち、自衛隊から次回出てきた提案で結構ですということで、スポーツ施設といっても具体的にどのようなスポーツ施設がほしいのか、例えばサッカー場とソフトボール場があればいいのか、といった市としての考えが何もなけれ

発 言 者	発 言 内 容
長谷川課長	<p>ば、夏までに答申を出すという短い期間で、何も協議できないのではないですか。ですから、市の当局がスポーツ施設であるなら何がスポーツ施設なのか、具体的なものを一緒に出さなければ。それは1ヶ月あれば市長をはじめ皆様方の意見を集約すれば出るのですから、次回の審議会ではスポーツ施設とは何かということを具体的に出してもらわないと、自衛隊が出した資料と、市の出した資料とでこの審議会では協議することが何もないのではないですか。市の考え方がきっちりしていないのなら、自衛隊が持ってきたものを、特に問題がなければ結構ですとするだけで良いのですか。</p> <p>これまでの計画をふまえて市で考えている部分については、次回の審議会でも説明できるよう用意します。</p>
久原委員	<p>土地に関しては防衛省が管轄するという理解でよろしいですね。市民が使う施設については、市の予算を使う意思があるのか、それとも国に要望し、すべて国任せにするのかということで、だいぶ要求できる内容が変わってくると思います。市にお金がないということは理解していますが、全くゼロでは対応できないと思いますので、そのあたりも含めて次回説明していただけたらと思います。</p>
長谷川課長	<p>ではそのあたりも含め、資料を用意したいと思います。</p>
吉川副会長	<p>平成20年のジョンソン基地跡地留保地利用計画書に、健康・スポーツ・医療のために利用できる施設とあり、別表第1によると、1/3を時価にて買い上げなければならないと書いてあります。金額のことについても説明されましたが、これはいつの金額だったのか確認したいのですが。</p>
長谷川課長	<p>平成22年に市で試算した額です。</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	他に意見等ないようでしたら、議事（２）については以上で終了とさせていただきます。
	議事（３）はその他、ですが事務局より何かありますか。
長谷川課長	１点ご報告します。資料の９として付けておりますが、先月決定し、これから国会の審議に入る、国の平成２７年度予算案に東町側留保地に関することが盛り込まれておりましたのでご紹介します。
	国の発表では資料の通り、災害対処拠点等施設が２７、２８年度の２か
	年分として３億４，０００万円、このうち２７年度の歳出分は３，０００
	万円、新病院については、２年度分で１億２，０００万円、うち２７年度
	の歳出分は１，０００万円となっております。主に２８年度に向けての作
	業だと思われます。このように予算に組み入れられていると防衛省から報
	告を受けております。
	内容としては、地形測量、ボーリング等の調査や土壌汚染の調査等とい
	うことです。
	この予算執行の前提となる財務省から防衛省への所管換えについては、
	入間市の回答を待って行われることとなりますが、予算は予算としてこの
	ような形で用意されていますという説明でした。
	この件についてもまた詳細の資料がいただければ次回説明したいと思っ
	ております。
関根会長	全体を通して何かございますか。
関根会長	では、事務局、次回審議会までに防衛省からの資料や、今日質問があっ
	たような市としての考えについての資料もできるわけですね。
長谷川課長	今回出た予算案のベースとなる国の考え方について、国からいただける

発 言 者	発 言 内 容
澤田委員	<p>資料を現在調整しているところですので、説明できるよう用意します。</p> <p>また、本日意見をいただきました、市役所側の考えについても、それを踏まえた説明ができるよう努めますのでよろしくお願いします。</p> <p>このまま順調に行けば今日の審議会は約３８分で終わりですね。事務局がもう少し自衛隊に対しての意見や、市の考え方を用意しなければ、せっかく集まっても意味がないと思います。病院に関して私は良く知っているわけですが、市が病院に何を求めるのか、おそらく次回も私が知っていること以上の内容は出てこないと思います。</p> <p>行政側と市長が病院に対して言っている内容がずれていることがたくさんあります。例えば産婦人科や小児科をやってもらおうといっても、自衛隊にはそれらの先生が一切いません。そのようなズレがずいぶん出るのではないかと思うので、行政側が市の内部できっちりと意見の集約をし、議題を持ってきていただかないと。</p> <p>おそらく自衛隊はプロですから完璧なものを持ってきます。新潟、３・１１、神戸の時はこうでしたから災害対処拠点が欲しいのです、ただ被災地に支援物資を送っても山のように余ってしまったので、一度集めてから仕分けしたい、そのためにはこれだけのスペースが必要です、というように国から提案が出てきたわけですね。市でももっとしっかりとした考えを出してもらわないと審議会の意味がないと思います。ですから、１か月後の審議会では自衛隊の意見と同時に市の考えがなければ、議論することはないのではないですか。</p> <p>次回も自衛隊が持ってきた資料の説明を受けて、それに問題がなければそれでよいと。私はそれで良いと思っていますが、行政側が何を考えているのか、しっかりと次回までに用意していただきたいです。</p>
長谷川課長	ただいまの澤田委員の意見をふまえて、次回に向けて調整したいと

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>思います。</p> <p>他にございますか。</p>
久原委員	<p>基地跡地については企画課だけで考えているのか、それとも色々な部署が関わっているのですか。</p>
長谷川課長	<p>東町側、駅前どちらの留保地についても、企画課が全庁的な窓口ということで、東町側では防衛省との調整を進めております。</p> <p>具体的な計画、例えば、運動施設については教育委員会の体育課であるように、諸々の関係課はありますが、窓口は企画課になっております。</p>
関根会長	<p>他になければ議事については以上となります。</p> <p>では次回日程について事務局より説明をお願いします。</p>
石井副主幹	<p>それでは次回の日程について申し上げます。</p> <p>次回の内容については先ほどお話のありましたとおり「東町側留保地の利用方法についての国の計画とそれに対する市の考え方」を議題としましてご審議いただくわけですが、日程につきましては、以前、委員の皆さんにご都合をお聞きしまして、最も都合の良い3月17日（火曜日）午後1時30分からと予定しております。場所につきましては、本日と同じ市民活動センターの活動室1、この場所を予定しております。詳しくは、あらためて通知させていただきます。以上です。</p>
関根会長	<p>委員の皆さんから、他に何かありますか。なければ、これを持ちまして第3回のジョンソン基地跡地利用計画審議会を終了させていただきます。お疲れさまでした。</p>

議事のてん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

27年 2月26日

議 長 の 署 名

関根 栄一

議長が指名した者の署名

岩井 潤江